



第1章

米中技術覇権競争と日本の経済安全保障

東京大学公共政策大学院 教授

鈴木 一人

【ポイント】

- 「技術覇権」は特定の技術を保有し、他国が長期にわたってその技術を得られない状態を作り、その技術を用いて国際秩序を形成する力である。米中宇宙競争や高速通信規格「5G」をめぐる競争は技術覇権競争ではない。新興技術をめぐる競争こそが技術覇権競争である。
- 新興技術は軍民両用性が高く、過去の輸出管理などの技術管理制度では十分ではない。またグローバルサプライチェーンの中で技術を管理することも難しい。そのため、技術が安全保障にどう影響するかを理解し、柔軟に管理する必要がある。
- 米中技術覇権競争の中で、日本はレバレッジとなる自律した能力を持つべきであり、欧州などと連携して国際標準を取りに行く努力が必要である。また他国への依存を減らして脆弱性を減らしていくことが重要である。



注目データ

新興技術における米中技術覇権の現状

技術分野	米中の現状
バイオテクノロジー	米国優位だが中国が急速にキャッチアップ
人工知能および機械学習技術	米中同等だがビッグデータの利用可能性は中国の方が高く、近い将来中国優位
測位	米国優位だが、中国も「北斗」衛星の運用が始まりキャッチアップ
マイクロプロセッサ技術	米国優位。半導体製造装置などの上流技術を日米欧が持つ
量子情報およびセンシング技術	中国優位。量子超越性を実現し、衛星を使った量子暗号通信でも先行
ロボティクス	日米欧が優位。中国は企業買収によってキャッチアップを目指す但投資規制で制約されている
先進的材料	日米欧が優位。輸出管理が厳しくなることで中国は国内技術の開発を進める
先進的サーベイランス技術	中国優位。顔認証システムなどすでに社会実装しており、さらに進化を続けている

資料：筆者作成